

文化講座

令和元年度 尾道市立中央図書館主催

第1回

9月8日

(日)

まもなく800号 雑誌「母の友」と子育ての言葉

「母の友」編集長 伊藤康

1977年愛知県生まれ。2004年福音館書店入社。「母の友」編集部に配属。2011年「子どものとも第一編集部」に異動し、絵本「どっこ動物園」(中村至男作)や「へるへるおじさん」(佐々木マキ作)を担当。2013年再び「母の友」に戻り、2015年から編集長。

概要 「だれかのちょっとした言葉で、心が軽くなったり、反対に重たい気持ちになったり。言葉って不思議ですね。いろんな人の言葉が詰まった紙のかたまり=雑誌の、21世紀における役割とはなんだろう、と考えております。」(講演者メッセージ)

福音館書店(1952創業)は、昨年「最優秀児童書出版社賞」を日本の出版社として初めて受賞。名作絵本を世に送り出した「母の友」の編集長が、雑誌に託す願いを語ります。

第2回

9月22日

(日)

尾道市名誉市民 三木半左衛門翁について

郷土史研究家 横本慶彦

昭和17年(1942年)6月 尾道生まれ。尾道北高、大阪市立大学経済学部卒業後、昭和40年(1965年)4月 広島銀行入行。平成7年(1995年)己斐支店長を最後に52歳で退職。その後広島、東京でベンチャー企業の役員地元の「広川グループ」の役員を経験。現在は、尾道市史編纂委員会(近世部会)の委員として活動。著書「北前船と尾道港との絆」「千光寺山頂から尾道の景色を楽しもう(尾道千光寺公園の開発と三木半左衛門)」「室町時代の熊野参詣における尾道千光寺の活躍」

概要

- ① 三木半左衛門の生い立ち
- ② 千光寺への石段造りと千光寺公園の開発
- ③ 尾道市への寄付
- ④ 千光寺公園の記録
- ⑤ 現状

第3回

10月6日

(日)

華やかな孤独 —林芙美子の生と文学

文芸評論家 尾形明子

東京生まれ。早稲田大学大学院博士課程修了。近代日本文学、特に自然主義文学と女性文学を専門とし、長谷川時雨主宰『女人藝術』『輝ク』を発掘・研究した。東京女子大学教授、早稲田大学非常勤講師等を経て、現在文芸評論家。主な著書に『女人藝術の世界—長谷川時雨とその周辺』(ドメス出版)『自らを欺かず—泡鳴と清子の愛』(筑摩書房)『評伝・宇野千代』(新典社)他

概要

長年、『女人藝術』『輝ク』で活躍した方々に聞き取りをした。彼女たちの話は、最後はいつも長谷川時雨と林芙美子だった。それらを『華やかな孤独 作家林芙美子』にまとめたが、あらためて芙美子の生涯と文学を辿りたい。

第4回

10月27日

(日)

平田玉蘊と 江戸時代の女性画家

実践女子大学教授 仲町啓子

1951年大分市生まれ。東京大学大学院博士課程中退。1996年度ニューヨーク・メトロポリタン美術館客員研究員。現在は、実践女子大学文学部美学美術史学科教授、秋田県立大正美術館長、国立歴史民俗博物館の運営会議委員などを勤める。女性画家に関する代表的な論文に「描いた女性たち—平安時代から江戸時代を中心に—」(『國華』第1397号所載)がある。

概要

今日あまり知られていませんが、江戸時代(特に後半期)にはかなり多くの女性画家が輩出しています。しかも三都以外の地方で活躍した女性も少なくありません。江戸時代の女性画家を紹介しながら、平田玉蘊の生涯と画業の特色を考えます。

第5回

11月3日

(日)

尾道三町物語 ～『尾道町をゆく』から～

尾道市史編さん室 林良司

地域学としての「尾道学」の構築と実践に取り組む「尾道学研究会」での活動を経て、現在は『新尾道市史』の編さんに従事する「尾道市 市史編さん委員会事務局」に専門嘱託員として在籍。加えて「尾道新聞」の嘱託記者と、二足の草鞋で活動中。

概要

「山陽日日新聞」、次いで「尾道新聞」紙上で連載され、第50回で最終を迎える「尾道町をゆく」をベースに、尾道町内に散在する歴史的・民俗的・文化的スポットや話題を拾い出しながら、尾道の町を表に裏にめぐってみたいと思います。

尾道市立中央図書館 2F 視聴覚ホール

開催時間各日 14:00-15:20 [13:30開場]

入場無料・予約不要



尾道市立図書館

ONOMICHI CITY LIBRARY

お問い合わせ/尾道市立中央図書館

TEL/0848-37-4946

<https://www.onomichi-library.jp/>

ACCESS MAP

